

令和5年度実施 幼児教育実態調査結果の概要について(公表資料)

令和6年1月 北海道教育庁学校教育局
義務教育課幼児教育推進センター

1 調査目的

幼児教育施設における幼児教育の更なる充実に向けた取組を進めるため、本道における幼児教育の現状を把握し、今後の施策の検討に資することを目的とする。

2 調査対象

- (1) 市町村(政令指定都市を除く。)
- (2) 幼児教育施設(幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園、地方裁量型認定こども園、保育所(認可保育所のみ)。政令指定都市立を含む。)

3 回答状況

- (1) 市町村:178市町村
- (2) 幼児教育施設:1,183施設(施設類型等別の内訳は次表のとおり)

幼稚園		認定こども園								保育所		合計
		幼稚園型		幼保連携型		保育所型		地方裁量型				
公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	1,183
32	186	5	89	23	250	34	121	0	4	163	276	

4 調査実施時期

令和5年9月上旬～11月上旬

5 調査内容

対象	調査事項	調査年度	
		令和4年度	令和5年度
市町村	(1) 幼児教育施設の担当部局の状況	○	○
	(2) 幼児教育アドバイザーの配置状況	○	○
	(3) 幼児教育センターの設置状況	○	○
	(4) 幼児教育に関する政策プログラムの策定状況	○	○
	(5) 幼児教育と小学校教育の連携・接続の状況 ① ・幼小連携・接続の実施状況 ② ・幼小連携・接続の取組状況	○ ○	○ -
幼児教育施設	(1) 園外研修への参加状況	○	-
	(2) 園内研修の実施状況	○	-
	(3) 園内研修の内容、実施頻度	○	-
	(4) 実施又は参加したい研修の内容	-	○
	(5) 保護者の要望等	-	○
	(6) 小学校教育との連携・接続の取組状況	○	-
	(7) 園庭・屋外遊戯場の状況等 ① ・園庭・屋外遊戯場に設置されているもの、教育・保育活動で特に活用しているものの状況 ② ・園庭・屋外遊戯場以外(園外)の身近な自然環境を利用した教育・保育活動の実施状況 ③ ・身近な自然と触れ合う体験の実施頻度 ④ ・身近な自然と触れ合う体験の実施内容	○ ○ ○ ○	-
	(8) ICT機器の利用状況	○	-

6 市町村あての調査結果

(1)	幼児教育施設の担当部局の状況	回答数	178市町村																																													
		調査年度	令和4年度、令和5年度																																													
【調査内容】 ・市町村の組織内で、幼児教育施設を担当している部局について調査。 ・幼稚園及び幼稚園型認定こども園は「幼稚園」、幼保連携型認定こども園及び地方裁量型認定こども園は「認定こども園」、保育所及び保育所型認定こども園は「保育所」として回答。																																																
【調査結果の概要】 ・「公立幼稚園」については教育委員会が担当している市町村が多く、「私立幼稚園」、「認定こども園」及び「保育所」については首長部局が担当している市町村が多くなっている。																																																
<資料>市町村の組織内の幼児教育施設の担当部局 ※施設類型等別																																																
<table border="1"> <caption>資料：市町村の組織内の幼児教育施設の担当部局 ※施設類型等別</caption> <thead> <tr> <th>施設類型</th> <th>市町村数</th> <th>首長部局 (%)</th> <th>教育委員会 (%)</th> <th>双方 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4公立幼稚園</td> <td>21</td> <td>23.8</td> <td>76.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>R5公立幼稚園</td> <td>19</td> <td>15.8</td> <td>84.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>R4私立幼稚園</td> <td>63</td> <td>69.8</td> <td>19.0</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>R5私立幼稚園</td> <td>61</td> <td>72.1</td> <td>19.7</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>R4認定こども園</td> <td>70</td> <td>80.0</td> <td>17.1</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>R5認定こども園</td> <td>72</td> <td>80.6</td> <td>16.7</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>R4保育所</td> <td>142</td> <td>90.8</td> <td>9.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>R5保育所</td> <td>141</td> <td>91.5</td> <td>8.5</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>				施設類型	市町村数	首長部局 (%)	教育委員会 (%)	双方 (%)	R4公立幼稚園	21	23.8	76.2	0.0	R5公立幼稚園	19	15.8	84.2	0.0	R4私立幼稚園	63	69.8	19.0	11.1	R5私立幼稚園	61	72.1	19.7	8.2	R4認定こども園	70	80.0	17.1	2.9	R5認定こども園	72	80.6	16.7	2.8	R4保育所	142	90.8	9.2	0.0	R5保育所	141	91.5	8.5	0.0
施設類型	市町村数	首長部局 (%)	教育委員会 (%)	双方 (%)																																												
R4公立幼稚園	21	23.8	76.2	0.0																																												
R5公立幼稚園	19	15.8	84.2	0.0																																												
R4私立幼稚園	63	69.8	19.0	11.1																																												
R5私立幼稚園	61	72.1	19.7	8.2																																												
R4認定こども園	70	80.0	17.1	2.9																																												
R5認定こども園	72	80.6	16.7	2.8																																												
R4保育所	142	90.8	9.2	0.0																																												
R5保育所	141	91.5	8.5	0.0																																												

(2)	幼児教育アドバイザーの配置状況	回答数	178市町村
		調査年度	令和4年度、令和5年度
【調査内容】 ・市町村における「幼児教育アドバイザー」（幼児教育施設を巡回し、園の教育内容や指導方法指導環境の改善について助言等を行う職）の5月1日現在の配置状況について調査。 ・アドバイザーの名称にかかわらず、類似の役割を持つものを含む。			
【調査結果の概要】 ・令和5年5月1日現在、「幼児教育アドバイザー」を配置している市町村は全体の5.1%（9市町）で、前年から0.5ポイント（1町）の減少となっている。			
<資料>幼児教育アドバイザーを配置している市町村 ※（ ）内は市町村数			
R3.5.1 現在(参考)			R4.5.1 現在
6.8% (12)			5.6% (10)
			R5.5.1 現在
			5.1% (9)

(市町村あての調査結果)

(3)	幼児教育センターの設置状況	回答数	178市町村	
		調査年度	令和4年度、令和5年度	
<p>【調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における「幼児教育センター」(幼稚園教諭、保育士、保育教諭等への研修機会の提供や幼児教育に関する研究の実施・成果の普及、各園等からの教育相談等を行う地域の拠点。)の5月1日現在の設置状況について調査。 ・センターの名称にかかわらず、類似の機能を持つものを含む。 				
<p>【調査結果の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月1日現在、幼児教育センターを「設置している」又は「部署間の連携等によりセンター機能を果たす体制を整備」している市町村は全体の21.4%(38市町)であり、前年から0.6ポイント(1町)の増加となっている。 				
<p><資料>幼児教育センターを設置している市町村等 ※()内は市町村数</p>				
		R3.5.1現在(参考)	R4.5.1現在	R5.5.1現在
既に設置している		1.7%(3)	1.7%(3)	1.7%(3)
設置に向けた準備中		0%(0)	0.6%(1)	0.6%(1)
設置を検討中		2.3%(4)	2.8%(5)	2.8%(5)
組織としてセンターを設置する予定はないが、部署間の連携等により、センター機能を果たす体制を整備している		18.3%(32)	19.1%(34)	19.7%(35)
組織としてセンターを設置する予定はないが、部署間の連携等により、センター機能を果たす体制の整備に向けた準備又は検討中		8.6%(15)	9.0%(16)	8.4%(15)
組織としてセンターを設置する予定はなく、部署間の連携等により、センター機能を果たす体制を整備する予定もない		69.1%(121)	66.9%(119)	66.9%(119)

(4)	幼児教育に関する政策プログラムの策定状況	回答数	178市町村	
		調査年度	令和4年度、令和5年度	
<p>【調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における「幼児教育に関する政策プログラム」の5月1日現在の策定状況について調査。 ・子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」として政策プログラムを定めている場合や、教育基本法に基づく「教育振興基本計画」、次世代育成支援対策推進法に基づく「市町村行動計画」等の項目の1つとして幼児教育に関する内容を定めている場合などを含む。 				
<p>【調査結果の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月1日現在、「幼児教育に関する政策プログラム」を策定している市町村は全体の37.1%(66市町村)で、前年と同数となっている。 				
<p><資料>幼児教育に関する政策プログラムを策定している市町村等 ※()内は市町村数</p>				
		R3.5.1現在(参考)	R4.5.1現在	R5.5.1現在
策定済み		35.2%(62)	37.1%(66)	37.1%(66)
策定予定あり		2.8%(5)	5.1%(9)	5.6%(10)
策定予定なし		52.3%(92)	54.5%(97)	53.9%(96)
未定		9.7%(17)	3.4%(6)	3.4%(6)

(市町村あての調査結果)

(5) ①	幼児教育と小学校教育の連携・接続の状況 ・幼小連携・接続の実施状況	回答数	178市町村
		調査年度	令和4年度、令和5年度

【調査内容】

・市町村における幼児教育施設の教育・保育と小学校教育との連携・接続の実施状況について調査。
・幼児教育と小学校教育の連携・接続の実施状況を次の目安(ステップ0～4)に照らして、該当するものを回答。

ステップ0：連携の予定・計画がまだ無い。

ステップ1：連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。

ステップ2：年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

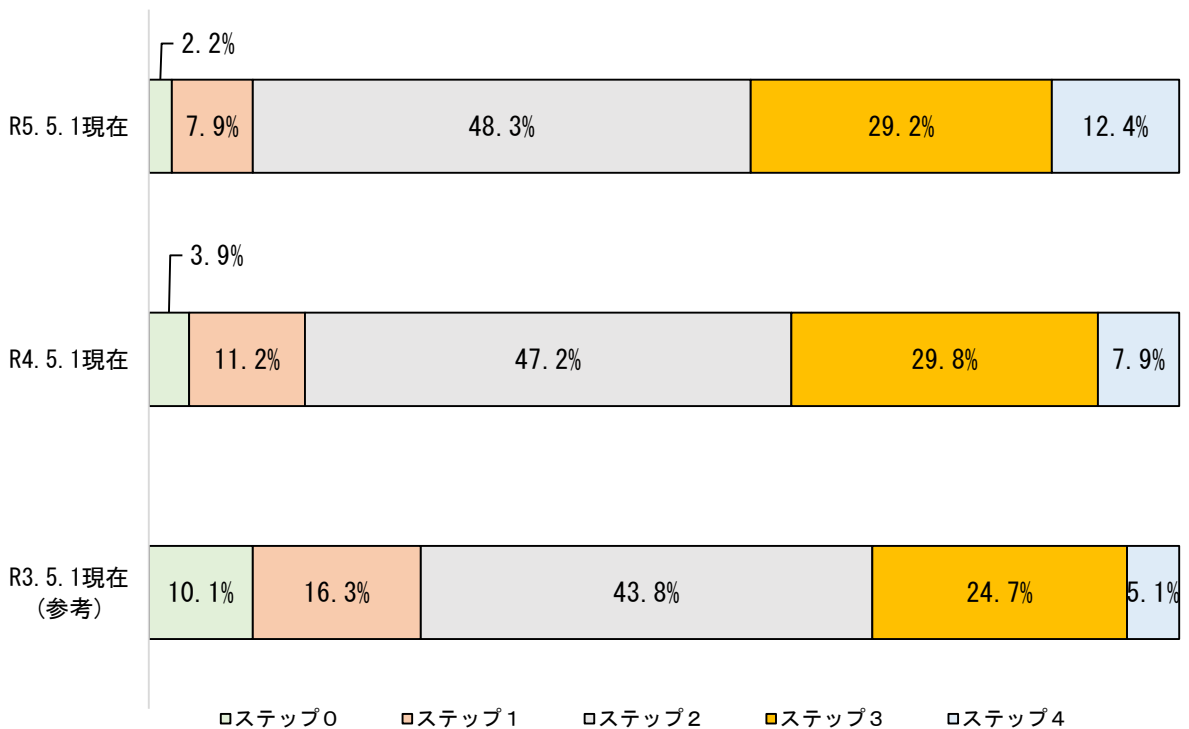
ステップ3：授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

ステップ4：接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

【調査結果の概要】

・令和5年5月1日現在、「幼小の接続を見通した教育課程の編成・実施」が行われている市町村(ステップ3 (29.2%)及びステップ4 (12.4%))は全体の41.6%(74市町村)であり、前年から3.9ポイント(7市町)の増加となっている。

〈資料〉市町村における幼小連携・接続の実施状況



(市町村あての調査結果)

(5) ②	幼児教育と小学校教育の連携・接続の状況 ・幼小連携・接続の取組状況	回答数	178市町村
		調査年度	令和4年度

【調査内容】

- ・市町村における幼児教育施設の教育・保育と小学校教育との連携・接続の取組状況について調査。
- ・「幼小連携・接続チェックシート（令和3年1月版）」の項目の中から、取組を行ったものを選択して回答（複数回答）。

【調査結果の概要】

- ・市町村が実施した幼小連携・接続の取組をみると、「幼児・児童の交流」55.1%が最も高く、次いで「情報共有」53.4%、「引継ぎ内容」48.9%、「引継ぎの場面」45.5%、「引継ぎ方法」43.3%となっている。また、「幼児教育施設と小学校等及び市町村をつなげる会議体を設定している」市町村は、全体の44.9%となっている。

<資料>市町村における幼小連携・接続（「幼小連携・接続チェックシート」）の取組状況

a 幼児教育の振興のために市町村で実施した取組

項目	R4.5.1現在
情報共有 広報誌等で周知、園だよりや行事予定など幼児教育施設・小学校間の情報共有を行っている	53.4%
幼児・児童の交流 交流の機会や合同の取組などの実施を促進している	55.1%
保育者・教職員の交流 参観や交流活動の実施を促進している	36.5%
引継ぎ内容 幼児教育施設や小学校及び関係施設の情報共有が円滑に行えるようサポート、個別の教育支援計画に準ずる内容の引継ぎを促進している	48.9%
引継ぎ方法 市町村独自の資料や引継ぎ項目の作成などを工夫をしている	43.3%
引継ぎの主体 小学校等が入学する幼児が所属する全ての幼児教育施設と引継ぎができるようサポートしている	39.3%
引継ぎの場面 域内の幼児教育施設と小学校等の担当者が集まり、引継ぎをおこなう場の設定・サポートをしている	45.5%
共通理解 幼児教育施設及び小学校等における「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の理解を促進している、双方の教育・保育内容、教育・保育方針を理解している	32.6%
編成・実施・評価・改善 スタートカリキュラムに参画したり実践の場を参観したりしている、幼児教育施設の意見を取り入れたスタートカリキュラムが編成されるようサポートをしている	23.0%

b 域内の幼児教育施設と小学校等及び市町村（首長部局・教育委員会）の連携内容

項目	R4.5.1現在
幼児教育施設と小学校等及び市町村をつなげる会議体を設定している	44.9%
会議体は設置していないが、幼小連携・接続の方向性について共有する機会を設定している 例) 幼児教育施設及び小学校の職員を対象に幼小連携・接続に向けた研修を実施	16.3%

7 幼児教育施設あての調査結果

(1)	園外研修への参加状況	回答数	(参加者数を集計)
		調査年度	令和4年度
<p>【内 容】</p> <p>・道・道教委が主催する研修(園外研修)に参加した幼児教育施設の保育者等の人数(年間延べ参加人数)を集計。</p>			
<p>【概 要】</p> <p>・令和4年度に、道・道教委が主催する研修に参加した幼児教育施設の保育者等は、年間延べ1,590人で、前年から217人の増加となっている。</p>			
<p><資料>道・道教委が主催する研修(園外研修)への参加状況 ※年間延べ参加人数</p>			
		令和3年度(参考)	令和4年度
幼児教育初任保育者研修(*I期・II期・宿泊研修)		599人	456人
幼児教育中堅保育者等質向上研修(*I期・II期)		150	229
幼児教育施設長研修(*I期・II期)		60	164
幼児教育の質の向上に関する研究協議会		95	116
幼児教育課題研修		219	232
幼小連携・接続担当者研修		197	342
園内研修リーダー育成講座		53	51
計		1,373	1,590
*I期・II期・宿泊研修の延べ参加人数を合算			

(2)	園内研修の実施状況	回答数	1,181施設								
		調査年度	令和4年度								
<p>【調査内容】</p> <p>・幼児教育施設における園内研修の実施状況(年間の実施回数)について調査。</p>											
<p>【調査結果の概要】</p> <p>・園内研修を実施した幼児教育施設は全体の91.6%であり、前年より4.7ポイントの減少となっている。</p> <p>・年間の実施回数をみると、「12回」12.4%が最も高く、次いで「2回」11.2%、「20回以上」10.0%、「3回」9.1%、「6回」7.6%の順となっている。</p>											
<p><資料>幼児教育施設における園内研修の年間実施回数</p>											
	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
令和4年度	8.4%	6.7%	11.2%	9.1%	6.4%	7.0%	7.6%	2.6%	3.6%	1.9%	4.7%
令和3年度(参考)	3.7%	7.6%	9.2%	10.5%	7.3%	6.0%	8.6%	3.0%	3.8%	2.3%	5.8%
	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回以上	
令和4年度	1.2%	12.4%	1.0%	1.8%	1.9%	1.2%	0.3%	0.8%	0.1%	10.0%	
令和3年度(参考)	1.4%	12.4%	1.5%	1.4%	3.4%	0.8%	1.1%	1.0%	0.6%	8.6%	

(幼児教育施設あての調査結果)

(3)	園内研修の内容、実施頻度	回答数	1,109施設
		調査年度	令和4年度

【調査内容】

・幼児教育施設における園内研修の内容別の実施頻度について調査。

【調査結果の概要】

・幼児教育施設で実施された園内研修の内容別の実施頻度をみると、「保育を振り返りながらの協議」86.6%が最も高く、次いで「自施設の園長や主任等による講話や実践講習」63.2%、「外部講師による講話や実践講習」60.6%、「研究保育」51.0%の順となっている。

〈資料〉幼児教育施設における園内研修の内容別の実施頻度 ※()内は令和3年度の状況(参考)

	実施している					実施していない
	週に2回以上	週に1回程度	月に1~2回程度	年に数回程度	計	
外部講師による講話や実践講習	0.1% (0.4%)	0.6% (0.9%)	3.3% (2.7%)	56.6% (37.4%)	60.6% (41.4%)	39.4% (58.6%)
自施設の園長や主任等による講話や実践講習	0.9% (0.9%)	2.0% (1.5%)	11.8% (13.6%)	48.5% (49.6%)	63.2% (65.6%)	36.8% (34.4%)
研究保育 (相互に保育を見合う)	1.4% (1.0%)	2.1% (1.7%)	10.1% (13.3%)	37.4% (39.1%)	51.0% (55.1%)	49.0% (45.0%)
保育を振り返りながらの協議	5.4% (4.9%)	9.9% (8.2%)	34.0% (34.1%)	37.3% (39.1%)	86.6% (86.3%)	13.4% (13.7%)
その他	防災研修、小児の救急講習、感染症予防講習、ICTに関すること など					

(4)	実施又は参加したい研修の内容	回答数	1,183施設
		調査年度	令和5年度

【調査内容】

・幼児教育施設において、実施又は参加したいと考えている研修の内容について調査。

・次の11項目の中から、当てはまるものを回答(複数回答)。

- ①乳児保育理解 ④保健衛生・安全対策 ⑦組織マネジメント ⑩小学校との連携
 ②幼児教育理解 ⑤保護者支援・子育て支援 ⑧教育・保育実践 ⑪制度や政策の動向
 ③食育・アレルギー対応 ⑥カリキュラム・マネジメント ⑨特別支援教育

【調査結果の概要】

・幼児教育施設において、実施又は参加したいと考えている研修の内容について、園外研修では「幼児教育理解」が最も多く、次いで「特別支援教育」、「保護者支援・子育て支援」の順、園内研修では「保健衛生・安全対策」が最も多く、次いで「幼児教育理解」、「保護者支援・子育て支援」の順となっている。

〈資料〉幼児教育施設において実施又は参加したい研修内容 ※11項目中回答の多い上位5項目

順位	園外研修		園内研修	
	令和4年度(参考)	令和5年度	令和4年度(参考)	令和5年度
1	②幼児教育理解	②幼児教育理解	④保健衛生・安全対策	④保健衛生・安全対策
2	⑤保護者支援・子育て支援	⑨特別支援教育	②幼児教育理解	②幼児教育理解
3	⑨特別支援教育	⑤保護者支援・子育て支援	⑤保護者支援・子育て支援	⑤保護者支援・子育て支援
4	④保健衛生・安全対策	④保健衛生・安全対策	⑨特別支援教育	⑨特別支援教育
5	①乳児保育理解	①乳児保育理解	①乳児保育理解	③食育・アレルギー対応

(幼児教育施設あての調査結果)

(5)	保護者の要望等	回答数	1,183施設
		調査年度	令和5年度

【調査内容】

・幼児教育施設において、当該施設に対して保護者がどのようなことを期待していると感じているか(保護者からの要望)及び幼児教育施設が特に力をいれているもの(保護者からの要望の有無を問わない)について調査。

・次の17項目の中から、それぞれ当てはまるものを回答。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| ①社会性が身につくようにしてほしい | ⑩小学校との交流を増やしてほしい |
| ②生活習慣が身につくようにしてほしい | ⑪小学校入学に向けての情報を発信してほしい |
| ③集団生活のルールを教えてほしい | ⑫①～⑩にあるもののほか、家庭ではできない体験をさせてほしい |
| ④文字や数等の学習機会を増やしてほしい | ⑬園での自分の子どもの様子を知りたい |
| ⑤体を動かす活動を増やしてほしい | ⑭保育者とコミュニケーションを取りたい |
| ⑥自然と触れ合う体験を増やしてほしい | ⑮保育の時間を長くしてほしい |
| ⑦友達と一緒に何かやりたい・作りたいという環境を作してほしい | ⑯家族が病気のときに預かってほしい |
| ⑧異年齢の交流を増やしてほしい | ⑰保育終了後におけいこ事をやってほしい |
| ⑨ものごとを諦めずにやり遂げることが身につくようにしてほしい | |

【調査結果の概要】

・「保護者から要望があると感じているもの」及び「幼児教育施設が注力しているもの」のいずれについても「生活習慣が身につくようにしてほしい」が最も高く、70%以上となっている。

<資料>幼児教育施設が保護者からの要望があると感じているもの、施設として注力しているもの

	保護者からの要望	幼児教育施設が注力
① 社会性が身につくようにしてほしい	58.2%	65.5%
② 生活習慣が身につくようにしてほしい	70.2%	71.3%
③ 集団生活のルールを教えてほしい	63.8%	64.6%
④ 文字や数等の学習の機会を増やしてほしい	16.0%	7.8%
⑤ 体を動かす活動を増やしてほしい	51.2%	55.6%
⑥ 自然と触れ合う体験を増やしてほしい	38.0%	53.7%
⑦ 友達と一緒に何かやりたい・作りたいという環境を作してほしい	38.9%	48.9%
⑧ 異年齢の交流を増やしてほしい	10.0%	24.5%
⑨ ものごとを諦めずにやり遂げることが身につくようにしてほしい	32.1%	50.0%
⑩ 小学校との交流を増やしてほしい	3.0%	6.1%
⑪ 小学校入学に向けての情報を発信してほしい	6.2%	3.8%
⑫ ①～⑩にあるもののほか、家庭ではできない体験をさせてほしい	38.4%	21.0%
⑬ 園での自分の子どもの様子を知りたい	66.1%	29.1%
⑭ 保育者とコミュニケーションを取りたい	17.8%	18.0%
⑮ 保育の時間を長くしてほしい	9.4%	1.3%
⑯ 家族が病気のときに預かってほしい	11.5%	1.7%
⑰ 保育終了後におけいこ事をやってほしい	3.9%	1.5%

(幼児教育施設あての調査結果)

(6)	小学校教育との連携・接続の取組状況	回答数	1,180施設
		調査年度	令和4年度
【調査内容】 ・幼児教育施設における小学校教育との連携・接続の取組状況について調査。			
【調査結果の概要】 ・幼児教育施設における小学校教育との連携・接続の取組の内容(複数回答)をみると、「d引継ぎ内容」84.4.%が最も高く、次いで「f引継ぎ場面」75.1%、「e引継ぎの主体」71.9%、「h-③会議等で内容について協議し、評価・改善を行っている」70.2%、「a情報等の共有」62.8%の順となっている。			
〈資料〉幼児教育施設における小学校教育との連携・接続の取組状況			
a	<p>情報等の共有</p> <input type="checkbox"/> 園だより、行事予定表、教育・保育方針などを小学校等や市町村へ情報提供している。 <input type="checkbox"/> 小学校等と調整して年間行事に交流日を位置づけている。 <input type="checkbox"/> 保護者に園だよりや説明会などの機会を通じて、幼小連携・接続の取組及びその重要性を説明している。 (例：園だより等をクラウドに保存して共有、小学校等と交流に係る日程調整用のファイルを共同編集など)	62.8%	
b	<p>幼児・児童の交流</p> <input type="checkbox"/> 児童を園行事に招待している。 <input type="checkbox"/> 小学校等の行事に参加している。 <input type="checkbox"/> 散歩、遠足などの際に小学校等の校庭、体育館、図書室、トイレなどの施設を利用している。 <input type="checkbox"/> 小学校等と合同で避難訓練や交通安全教室などを企画又は、参加している。	44.1%	
c	<p>保育者・教職員の交流</p> <input type="checkbox"/> 小学校等の学校公開日や参観日などで授業を参観したり、参観後の意見交換・協議に参加している。 <input type="checkbox"/> 幼小合同研修会を企画又は、参加している。 <input type="checkbox"/> 小学校等との交流活動の窓口を明確化し、事前打ち合わせ、指導案の作成・協議、情報交換、事後の振り返りなどを行っている。 (例：オンラインミーティングツールを活用した打ち合わせや合同研修会の実施、指導案等の共同編集など)	47.4%	
d	<p>引継ぎ内容</p> <input type="checkbox"/> 要録を基にしている。 <input type="checkbox"/> 幼児の健康状態、アレルギー、その他必要な事項も含めている。 <input type="checkbox"/> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点としている。 <input type="checkbox"/> 幼児の様々な情報を保護者が記録・保管するための手段を活用して、個別の教育支援計画及び準ずる内容の引継ぎをしている。	84.4%	
e	<p>引継ぎの主体</p> <input type="checkbox"/> 主任や担任などが組織的に引継ぎをしている。 <input type="checkbox"/> 所属する幼児が入学する全ての小学校を対象としている。	71.9%	
f	<p>引継ぎ場面</p> <input type="checkbox"/> 対面での引継ぎがかなわない場合、電話などで行っている。 <input type="checkbox"/> 幼児と児童の交流や小学校等の入学説明会、授業参観など年間を通じて効果的な引継ぎの機会をもっている。	75.1%	
g	<p>共通理解</p> <input type="checkbox"/> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解している。 <input type="checkbox"/> 小学校等での児童の発達・特性を理解している。 <input type="checkbox"/> 小学校等の教育内容・教育方針を理解している。 <input type="checkbox"/> 「小学校学習指導要領」を把握している。	61.5%	
h	編成・実施・評価・改善(216施設)	18.2%	
h-①	小学校と合同でスタートカリキュラムを作成している。	17.7%	
h-②	小学校が作成するスタートカリキュラムへの助言を行っている。	28.4%	
h-③	会議等で内容について協議し、評価・改善を行っている。	70.2%	

(幼児教育施設あての調査結果)

(7) ①	園庭・屋外遊戯場の状況等 ・園庭・屋外遊戯場に設置されているもの、教育・保育活動で特に活用しているものの状況	回答数	1,180施設
		調査年度	令和4年度

【調査内容】

・幼児教育施設の園庭・屋外遊戯場(これらの代替地として認められているものを含む。以下「園庭等」という。)に設置されているもの及び設置されているもののうち、教育・保育活動で特に活用しているものについて調査(複数回答)。

【調査結果の概要】

・園庭等に設置されているものをみると、「砂遊び場」90.3%が最も高く、次いで「固定式遊具」87.1%、「植物を栽培する場」84.5%、「樹木」65.3%、「水遊び場」63.7%の順となっている。
 ・園庭等に設置されているもののうち、当該設置する施設が、教育・保育活動で特に活用しているものをみると、「ビオトープ」89.8%が最も高く、次いで「築山(斜面)」85.1%、「砂遊び場」84.8%、「植物を栽培する場」83.2%、「水遊び場」81.5%の順となっている。

<資料>幼児教育施設の園庭・屋外遊戯場に設置されているもの、特に活用しているもの

	園庭等に設置されているもの	左記のうち教育・保育活動で特に活用しているもの
固定式遊具	87.1%	80.8%
築山(斜面)	40.3%	85.1%
トンネル	16.1%	70.5%
憩い等の場	38.0%	73.9%
砂遊び場	90.3%	84.8%
水遊び場	63.7%	81.5%
泥遊び場	52.3%	76.5%
樹木	65.3%	47.1%
芝生	54.8%	62.6%
緑化スペース	58.4%	63.3%
植物を栽培する場	84.5%	83.2%
生き物を飼育する場	18.4%	77.0%
ビオトープ	4.2%	89.8%

(7) ②	園庭・屋外遊戯場の状況等 ・園庭・屋外遊戯場以外(園外)の身近な自然環境を利用した教育・保育活動の実施状況	回答数	1,180施設
		調査年度	令和4年度

【調査内容】

・幼児教育施設における園庭・屋外遊戯場以外(園外)の身近な自然環境を活用した教育・保育活動の実施状況について調査。

【調査結果の概要】

・園庭・屋外遊戯場以外(園外)の身近な自然環境を活用して教育・保育活動を行っている幼児教育施設の割合は、全体の86.6%となっている。

<資料>幼児教育施設における園外の身近な自然環境を活用した教育・保育活動の実施状況

実施している	86.6%
実施していない	13.4%

(幼児教育施設あての調査結果)

(7) ③	園庭・屋外遊戯場の状況等 ・身近な自然と触れ合う体験の実施頻度	回答数	1,171施設										
		調査年度	令和4年度										
【調査内容】 ・幼児教育施設における身近な自然と触れ合う体験の実施頻度について調査。													
【調査結果の概要】 ・幼児教育施設における身近な自然と触れ合う体験の実施頻度をみると、「ほぼ毎日実施している」37.4%が最も高く、次いで「週に3～4回程度実施している」25.4%、「週に1～2回程度実施している」20.9%の順となっている。													
<資料>幼児教育施設における身近な自然と触れ合う体験の実施頻度 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ほぼ毎日実施している</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">37.4%</td> </tr> <tr> <td>週に3～4回程度実施している</td> <td style="text-align: right;">25.4%</td> </tr> <tr> <td>週に1～2回程度実施している</td> <td style="text-align: right;">20.9%</td> </tr> <tr> <td>月に1～2回程度実施している</td> <td style="text-align: right;">10.3%</td> </tr> <tr> <td>年に数回程度実施している</td> <td style="text-align: right;">6.0%</td> </tr> </table>				ほぼ毎日実施している	37.4%	週に3～4回程度実施している	25.4%	週に1～2回程度実施している	20.9%	月に1～2回程度実施している	10.3%	年に数回程度実施している	6.0%
ほぼ毎日実施している	37.4%												
週に3～4回程度実施している	25.4%												
週に1～2回程度実施している	20.9%												
月に1～2回程度実施している	10.3%												
年に数回程度実施している	6.0%												

(7) ④	園庭・屋外遊戯場の状況等 ・身近な自然と触れ合う体験の実施内容	回答数	1,171施設																																				
		調査年度	令和4年度																																				
【調査内容】 ・幼児教育施設における身近な自然と触れ合う体験の実施内容について調査(複数回答)。																																							
【調査結果の概要】 ・幼児教育施設が実施している「身近な自然と触れ合う体験」の内容をみると、「雪遊びをする」96.6%が最も高く、次いで「木の実や落ち葉などを拾う」92.1%、「土・砂・泥遊びをする」89.2%、「草花や野菜、米を育てる」88.5%、「草花を摘む」87.0%の順となっている。																																							
<資料>幼児教育施設における身近な自然と触れ合う体験の実施内容 ※実施されている割合が高いものから順に掲載 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 60%;">雪遊びをする</td> <td style="width: 35%; text-align: right;">96.6%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>木の実や落ち葉などを拾う</td> <td style="text-align: right;">92.1%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土・砂・泥遊びをする</td> <td style="text-align: right;">89.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>草花や野菜、米を育てる</td> <td style="text-align: right;">88.5%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>草花を摘む</td> <td style="text-align: right;">87.0%</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>虫や小さな生き物を捕る</td> <td style="text-align: right;">85.8%</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>果樹の実などを収穫する</td> <td style="text-align: right;">53.9%</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>生き物を飼育する</td> <td style="text-align: right;">49.4%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>木登りをする</td> <td style="text-align: right;">22.3%</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>小動物と触れ合う</td> <td style="text-align: right;">14.6%</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>海や川で遊んだり、泳いだりする</td> <td style="text-align: right;">13.7%</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>海や川、湖で貝を採ったり、魚を捕ったりする</td> <td style="text-align: right;">8.2%</td> </tr> </table>				1	雪遊びをする	96.6%	2	木の実や落ち葉などを拾う	92.1%	3	土・砂・泥遊びをする	89.2%	4	草花や野菜、米を育てる	88.5%	5	草花を摘む	87.0%	6	虫や小さな生き物を捕る	85.8%	7	果樹の実などを収穫する	53.9%	8	生き物を飼育する	49.4%	9	木登りをする	22.3%	10	小動物と触れ合う	14.6%	11	海や川で遊んだり、泳いだりする	13.7%	12	海や川、湖で貝を採ったり、魚を捕ったりする	8.2%
1	雪遊びをする	96.6%																																					
2	木の実や落ち葉などを拾う	92.1%																																					
3	土・砂・泥遊びをする	89.2%																																					
4	草花や野菜、米を育てる	88.5%																																					
5	草花を摘む	87.0%																																					
6	虫や小さな生き物を捕る	85.8%																																					
7	果樹の実などを収穫する	53.9%																																					
8	生き物を飼育する	49.4%																																					
9	木登りをする	22.3%																																					
10	小動物と触れ合う	14.6%																																					
11	海や川で遊んだり、泳いだりする	13.7%																																					
12	海や川、湖で貝を採ったり、魚を捕ったりする	8.2%																																					

(幼児教育施設あての調査結果)

(8)	ICT機器の利用状況	回答数	1,183施設
		調査年度	令和4年度

【調査内容】

- ・幼児教育施設におけるICT機器(パソコン、タブレット端末など、インターネットに接続することのできる機器)の利用状況について調査。
- ・教育活動(幼児の創作物を写真に撮影し共有等)、園外活動(オンライン研修、ICTを活用した公開保育等)、園内活動(オンデマンド研修等)、業務(園だよりの作成、経理などの事務的作業等)、保護者への連絡などの場面別の利用状況について調査。
- ・次のとおり用語を定義して使用する。
 「幼稚園」・・・幼稚園、幼稚園型認定子ども園
 「認定こども園」・・・幼保連携型認定子ども園、地方裁量型認定子ども園
 「保育所」・・・保育所、保育所型認定こども園

【調査結果の概要】

- ・ICT機器の利用状況を施設類型等別にみると、「私立認定こども園」98.3%が最も高く、次いで「私立幼稚園」96.8%、「私立保育所」89.9%、「公立幼稚園」86.8%、「公立保育所」82.3%、「公立認定こども園」80.0%の順となっている。
- ・場面別の利用状況では、「業務(園だよりの作成、経理などの事務的作業等)」が最も高く、全ての施設類型等で70%以上となっている。

〈資料〉幼児教育施設におけるICT機器の利用状況 ※施設類型等別



〈資料〉場面別のICTの利用状況 ※施設類型等別

